

池上通信機 スポーツ用など事業強化

4K次世代カメラ 内外で拡販

池上通信機は、現在主流のフルハイビジョンに比べ4倍の解像度を誇る4K関連機器事業の強化に乗り出した。その一環として、使い慣れたHD（高解像度）カメラと同様の運用性で4K映像を制作できる次世代カメラ「UHK-430」を発売。国内の放送局だけでなく海外にも積極的に売り込んでいく。また、医療現場向けに4Kの高精細映像と色再現性を追求した高

解像カメラも投入した。

UHK-430は、現行の放送現場で広く使われている撮像素子「3分の2型センサー」などが搭載され、既存のHDレンズが使用できる。

4Kは、視野角が広がることで「臨場感が高まる」（マーケティング本部の秋山浩志・副本部長）のが売り物の一つ。また、1画面で暗いところと明るいところを両立して表現できる

ことから、サッカーのスタジアムなどでの中継に適している。このため、スポーツイベントの中継を効率的に行える周辺機器を拡充した。

海外での販売態勢も強化する。同社はもともと韓国の放送局でのシェアが高いため、2018年の平昌五輪に合わせて売り込みに力を入れる。また、将来的にワールドカップなどの大型イベント開催が予測される中東地

医療向けのカメラ「MKC-750 UHD」。4K技術によって、より高度な手術を支援する



域の放送局も、重要なターゲットとなる。

一方、手術室や外来の患者向けの手術顕微鏡システムや、手術を行う際に目に見える部分を指す「術野」システム用に開発

したカメラ「MKC-750 UHD」は、4Kの迫力ある映像と、実際に目で捉える色を忠実に再現した高色彩な映像を創り出す。色再現性については、医療現場で求められる赤の色再現性が優れている。運用面では操作性を重視。カメラヘッドもこれまでのHDカメラと同じ小型のサイズとし、従来と変わらないオペレーションで高精細な映像表現を実現している。

また、医療用映像システム用カメラ「MKC-704KHD」は、高感度と高画質を両立し豊かな映像表現が可能な機能を装備。眼科や外科をはじめとした現場に売り込む方針だ。